

事例番号:300530

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第五部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 2 日

7:30 既往帝王切開、選択的帝王切開目的で入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 2 日

10:59 帝王切開で児娩出

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 2 日

(2) 出生時体重:2600g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.29、BE -3.8mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 7 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等

生後 9 日 退院

生後 6 ヶ月 右手の動きが不良

3 歳 右側の上肢・下肢に強い痙直性麻痺あり

(7) 頭部画像所見:

生後 2 歳 4 ヶ月 頭部 MRI で左の中大脳動脈の支配領域に一致し、大脳の

嚢胞変性、左側脳室の拡大を認める。

#### 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名

看護スタッフ: 看護師 2 名

### 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は脳の血管(左側中大脳動脈の運動支配領域)の閉塞による血流障害(脳梗塞)である。

(2) 脳梗塞の原因および発症時期は不明である。

### 3. 臨床経過に関する医学的評価

#### 1) 妊娠経過

妊娠経過中の管理は一般的である。

#### 2) 分娩経過

(1) 分娩経過中の管理は一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

#### 3) 新生児経過

(1) 出生後の新生児の処置(吸引、刺激、酸素投与)は概ね一般的である。

(2) その後の新生児の管理(ややチアノーゼあり開放型保育器へ収容、パルスオキシメーター装着、軽度呼吸障害のため酸素投与を継続)は一般的である。

(3) 早発黄疸に対する管理(黄疸計による測定、血液検査、光線療法、退院後の黄疸のフォローアップ検査)は一般的である。

### 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

#### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

観察した事項および実施した処置等に関しては、診療録に正確に記載することが望まれる。

【解説】 本事例は、「原因分析に係る質問事項および回答書」によると、

入院時以降、児娩出までの胎児心拍数は診療録に記載なく不明とされている。異常がある場合に限らず、観察した事項については診療録に記載することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

胎児期から乳幼児期に発症する脳梗塞による脳性麻痺発症例について、事例の集積と現状把握を行い、さらにその病態について研究の推進が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。